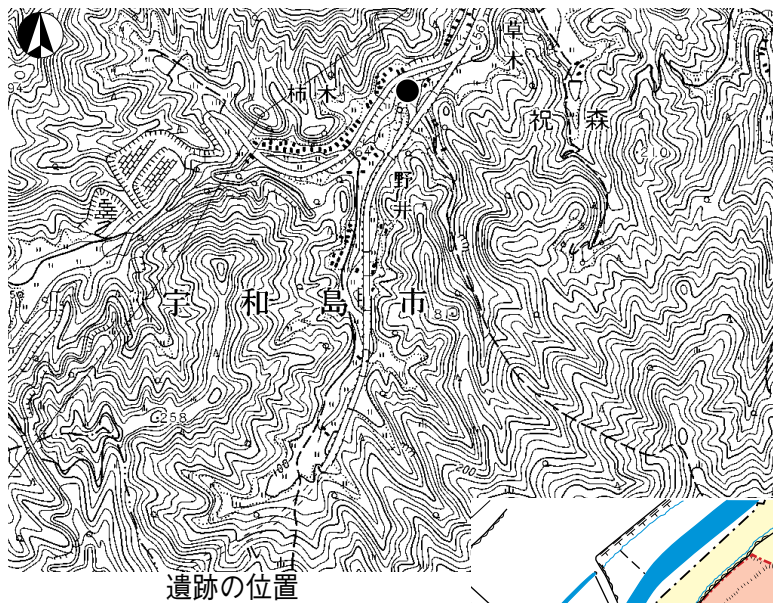
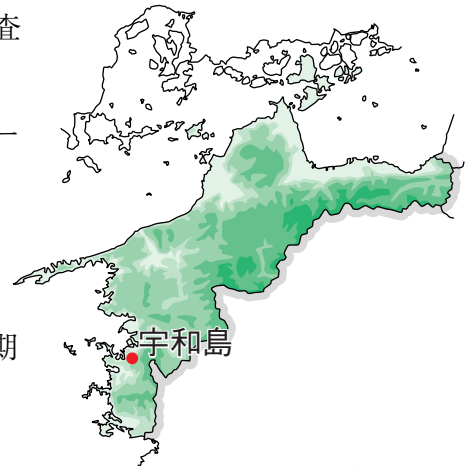


柿の木西法寺遺跡

事業名	一般国道56号宇和島道路埋蔵文化財調査
委託者	国土交通省四国地方整備局
受託者	財団法人愛媛県埋蔵文化財調査センター
場所	宇和島市祝の森
調査面積	2,700m ²
調査期間	平成16年7月～11月
遺跡の時代	中世(14世紀後半頃),縄文時代早期・後期
遺跡の種類	中世(集落),縄文時代(遺物散布地)

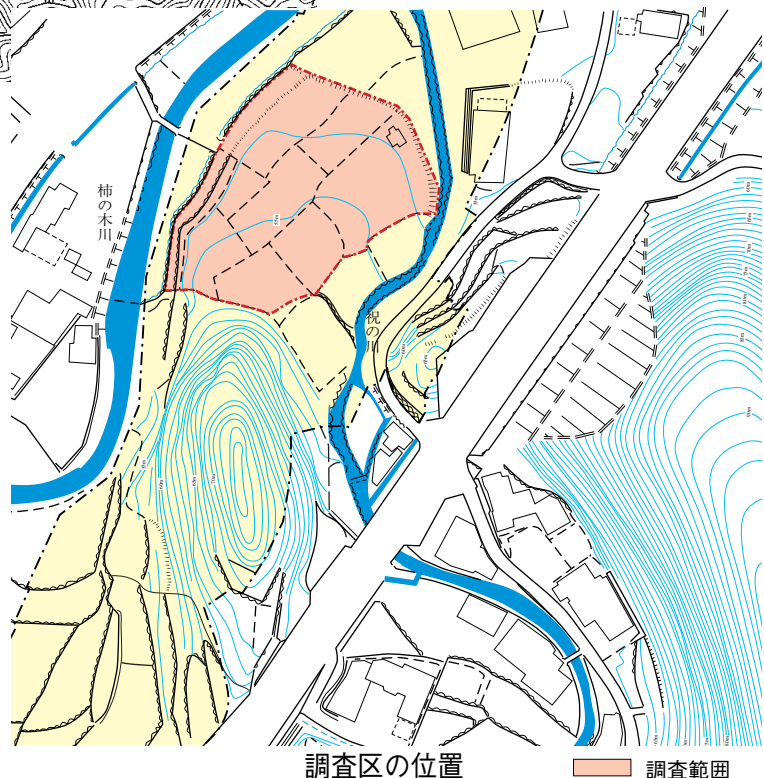


柿の木西法寺遺跡 調査前

柿の木西法寺遺跡は、宇和島市の最南部、国道56号から分岐する旧松尾街道との合流点に位置しています。

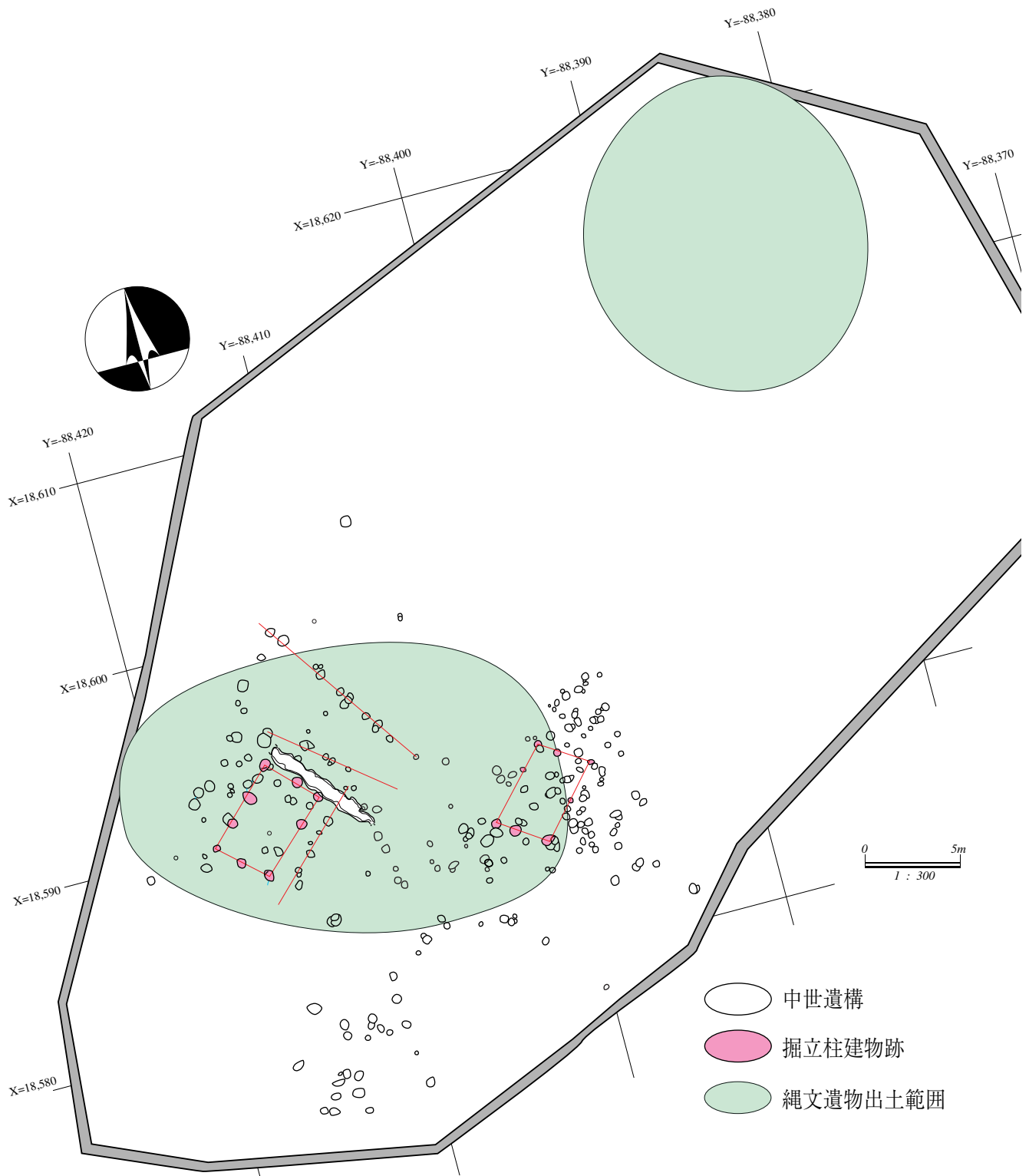
調査区は、2本の川(柿の木川と祝の川)に挟まれた平坦地で、周辺は急峻な山々に囲まれています。祝の川は現在、調査区の東側をやや蛇行して流れていますが、国道56号が現在の場所を通るまでは、もう少し西側(調査区の中央)を流れていたことがわかっています。

また、祝の川上流の谷部より土石流が幾度も起こり、調査区内にはそのために多量の土砂や大礫が流れ込んでいます。



調査区的位置

調査範囲



柿の木西法寺遺跡 遺構配置図

今回の発掘調査では、大きく2つの時期(中世・縄文時代)の遺構・遺物を確認することができました。

中世(14世紀後半頃)の遺構としては、掘立柱建物跡2棟、柵列3条をはじめ、柱穴が多数検出され、この付近に集落が営まれていたことがわかります。ただし、この時期の遺構は、調査区の南西部のみで検出され、北側には広がっていませんでした。当遺跡の土層の堆積状況を見ると、何度も土石流が起こったことが確認されています。調査区北東側に遺構が検出されなかった理由の一つに、このような自然状況により遺構が消滅してしまったことが挙げられます。

当調査区は、周辺の人々の間で、寺院が存在していたという伝承が残る場所であり、今回の発掘調査の目的の一つに、寺院の存在を裏付ける遺構・遺物を検出するということがありました。しかし、調査の結果、そのような遺構・遺物は検出できませんでした。

縄文時代においては、集落の存在を示す遺構は確認出来ませんでした。縄文時代早期・後期の土器や石鏃(黒曜石製・サヌカイト製・頁岩製)、黒曜石剥片、頁岩剥片が一定量出土しています。



トレンチ掘削状況



縄文時代後期包含層
北側トレンチ(西より)



遺構精査



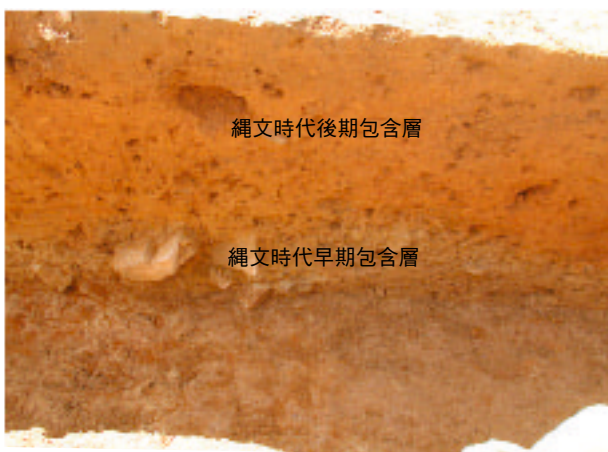
遺構内遺物出土状況



遺構掘削状況



SP26



縄文時代後期包含層
縄文時代早期包含層
西側トレンチ(北より)



黒曜石 出土状況(II層：縄文後期包含層)

熱田城跡

事業名 一般国道56号宇和島道路埋蔵文化財調査
委託者 国土交通省四国地方整備局
受託者 財団法人愛媛県埋蔵文化財調査センター
場所 津島町高田
調査面積 2,500m²
調査期間 平成15年11月～平成16年3月
遺跡の時代 中世(14世紀後半～15世紀前半頃)
遺跡の種類 城跡

熱田城跡は遠近川に面する丘陵に築かれた中世の山城です。城は平坦部(主郭)とその南北に掘られた2条の堀切で構成されています。さらに主郭の中央に見張台と考えられる高まりが設けられ、主郭南西部に一段低い平坦面を設けて、掘立柱建物が建てられていたようです。南堀切の城内側からは、土が流れ出していて残りは良くなかったのですが、土塁状の高まりと石列が見つかっています。

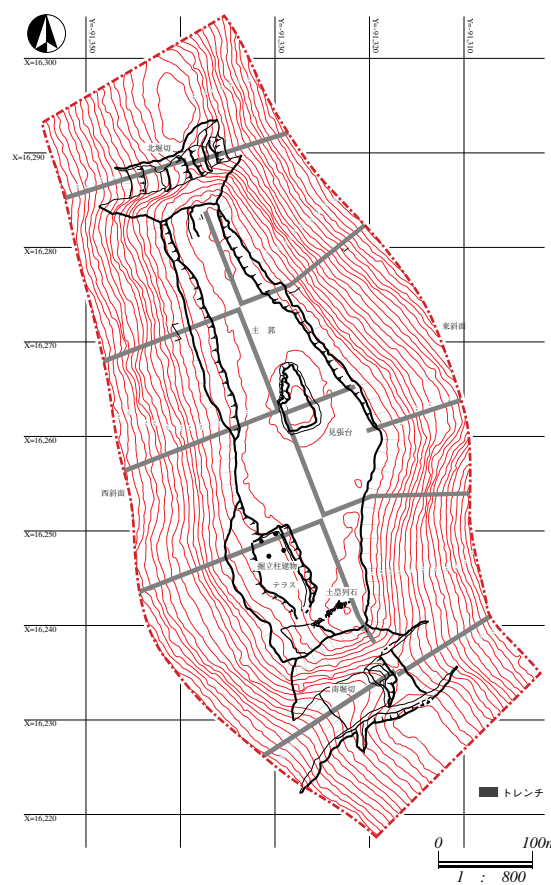
出土した遺物のごくわずかですが、掘立柱建物の周りから土師器の皿杯類4点と鉄釘1点、主郭中央部付近から土師器皿2点、見張台から石錘1点、東西斜面の崩落土から土師器皿それぞれ1点ずつが出土しています。

今回の発掘調査によって明らかとなった熱田城の特徴をまとめると、

- 1 城の立地は尾根の鞍部であり、周囲よりも低い位置に立地している。
- 2 見晴らしが良くなく、城から見えるのは城の東の遠近川沿いの谷だけであるが、この谷には旧街道が存在していた。
- 3 単純な構造の小さな城である。
- 4 防御施設は南北の堀切及び土塁のみで、軍事的機能が貧弱である。
- 5 堀切は箱堀(断面形が逆台形)である。
- 6 見張台の基礎と考えられる高まりが存在する。
- 7 居住施設や遺物が少なく、人が常時生活していたとは考えられない。

城の時期は遺物が少なく、はっきりとはわからないのですが、城の構造や遺物の特徴から14世紀後半から15世紀前半頃と考えられます。

熱田城跡は立地や構造から、有力豪族や領主の城だったとは考えられません。むしろ、村の有力農民などを中心にして造られた戦時避難場所的な施設で、いわゆる「村の城」と呼ばれているものと考えられます。「村の城」は戦略上の軍事拠点というよりも、村人たちの共同施設として、村の結束を高めるための象徴的な役割を果たしていたものと考えられます。



熱田城跡 東斜面掘削状況